日本簿記学会ニュース

No. 46:12 ／ 2008

《部会・大会の経過報告》

第 24 回関東部会は平成 20 年 6 月 28 日（土）東京理科大学（準備委員長：原田 昇氏，実行委員長：吉岡正道氏），第 24 回全国大会は平成 20 年 8 月 28 日（木）から 30 日（土）に香川大学（準備委員長：井原理代氏）にて，各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記および大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第 25 回関西部会は，平成 21 年 5 月 30 日（土）に九州大学（準備委員長：岩崎勇氏）にて，第 25 回関東部会は，平成 21 年 6 月 20 日（土）に，横浜商業高等学校（準備委員長：粕谷和生氏）にて，第 25 回全国大会は，平成 21 年 8 月に東京経済大学（準備委員長：久木田重和氏）にて各々開催される予定です。

《第 24 回全国大会正会員出席者状況》

第 24 回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全　体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	236 名	201 名	15 名	3 名	8 名	9 名
比　率	100.0% (注)	85.2%	6.4%	1.3%	3.4%	3.8%

（注） 各区分の比率を小数点第一未満で四捨五入しているため，僅少差 0.1％が生じておりますが，便宜上，表示しておりません。

《役員選挙・役割決定について》

日本簿記学会第 24 回全国大会において，新役員が次のように決定しました。（五十音順）

会　長　興津　裕康（近畿大学（名））

副会長　浦崎　直浩（近畿大学）　横山　和夫（東京理科大学）

理　事　【大学関係】

泉　　宏之（横浜国立大学）会務担当

上野　清貴（中央大学）ホームページ担当

古賀　智敏（神戸大学）研究担当

渋谷　武夫（専修大学）学会ニュース担当

田中　建二（明治大学）研究担当

藤永　　弘（青森公立大学）会員担当

井原　理代（香川大学）学会ニュース担当

河﨑　照行（甲南大学）会務担当

佐藤　信彦（明治大学）学会誌担当

高須　教夫（兵庫県立大学）大会・部会担当

新田　忠誓（帝京大学）大会・部会担当

【高校関係】

粕谷　和生（横浜商業高校）ホームページ担当

【専門学校関係】

吉田　松雄（吉田学園）会員担当

【職業会計人関係】

山本　　巌（公認会計士）会計担当

監　事　氏原　茂樹（流通経済大学）　中野　常男（神戸大学）

幹　事　清水　泰洋（神戸大学）　原　　俊雄（横浜国立大学）　和田　博志（近畿大学）

渡邊　貴士（亜細亜大学短期大学部）　渡辺　雅雄（明治大学）

《学会誌編集委員》

学会誌編集委員が下記の通り決定いたしました。

委員長：瀧田輝己（同志社大学）

委　員：泉　宏之（横浜国立大学）　上野清貴（中央大学）　古賀智敏（神戸大学）　佐藤信彦（明治大学）
　　　　田中建二（明治大学）　原田保秀（四天王寺大学）　山口忠昭（近畿大学）

《学会賞審査委員》

学会賞審査委員が下記の通り決定いたしました。

委員長：中野常男（神戸大学）

委　員：職業会計人等　　山本　巖（公認会計士）
　　　　高校・専門学校　粕谷和生（横浜商業高校）
　　　　大　　　　学　　田中建二（明治大学）　高須教夫（兵庫県立大学）

《平成 20・21 年度研究部会のテーマおよびメンバー》

平成 20・21 年度研究部会のテーマおよびメンバーが先の総会にて下記の通り承認されました。

簿記理論研究部会テーマ：「情報技術の発展と簿記理論の変容に関する研究」

メンバー：部会長／河﨑照行（甲南大学）
　　　　　委　員／池田公司（甲南大学），浮田泉（関西国際大学），浦崎直浩（近畿大学），
　　　　　岡本紀明（流通経済大学），沖野光二（兵庫大学），齋野純子（甲南大学），
　　　　　坂上学（大阪市立大学），田代樹彦（名城大学），羽藤憲一（近畿大学）

簿記教育研究部会テーマ：「『教養としての簿記』に関する研究」

メンバー：部会長／上野清貴（中央大学）
　　　　　委　員／池田幸典（高崎経済大学）市川紀子（駿河台大学），小野正芳（千葉経済大学），
　　　　　加瀬きよ子（新宿山吹高校），北見善彦（学校法人岩谷学園），
　　　　　桑原知之（ネットスクール（株）），島本克彦（姫路商業高校），
　　　　　竹中輝幸（全国経理教育協会），中野貴元（イーグローバレッジ（株）），
　　　　　長谷川清晴（千葉商科大学），原田隆（筑波大学），本所靖博（明治大学），
　　　　　オブザーバー／佐藤信彦（明治大学）

簿記実務研究部会テーマ：「新会計基準における勘定科目の研究」

メンバー：部会長／菊谷正人（法政大学）
　　　　　委　員／生駒和夫（新日本監査法人），石津寿惠（明治大学）石原裕也（帝京大学），
　　　　　石山宏（松本大学），梅原秀継（中央大学），岡村勝義（神奈川大学），奥村輝夫（専修大学），
　　　　　尾畑裕（一橋大学），粕谷和生（横浜商業高校），北村信彦（公認会計士），
　　　　　佐々木隆志（一橋大学），島本克彦（姫路商業高校），杉山晶子（東洋大学），
　　　　　田宮治雄（東京国際大学），近田典行（埼玉大学），長岡美奈（大原学園大原簿記学校），
　　　　　中野貴之（法政大学），西山一弘（東海大学），古庄修（日本大学），溝上達也（松山大学），
　　　　　山本巖（公認会計士），吉田智也（福島大学），依田俊伸（法政大学），李精（常磐短期大学）
　　　　　研究協力者／松下真也（一橋大学大学院生）

《産業経理協会からの研究助成の受入と研究会の立ち上げについて》

産業経理協会からの研究助成補助の内示を受け，第 24 回全国大会でご承認いただきましたように，この使用について，これまでの平成 14・15 年度簿記教育研究部会（部会長　新田忠誓），平成 16・17 年度簿記教育研究部会（部会長　渋谷武夫），平成 18・19 年度簿記実務研究部会（部会長　横山和夫）の研究成果を融合発展させる形での研究成果の公表を意識して拡大勘定科目研究会（世話人代表，新田忠誓，世話人，渋谷武夫，横山和夫，菊谷正人）を立ち上げ，活動を始めました。この活動は，http://accountitem.blogspot.com/　で公開しております。なお，この研究会の性格上，今年度からの簿記実務研究部会（部会長　菊谷正人）の研究成果も取り入れることも予定しております。

新田忠誓

《平成 20 年度日本簿記学会学会賞》

第 24 回全国大会において，平成 20 年度日本簿記学会学会賞が下記の通り決定いたしました。

授賞著書　中野常男編著『複式簿記の構造と機能―過去・現在・未来―』
同文舘出版，2007 年 11 月

学会賞対象著書の概要

本書は，複式簿記の「過去」,「現在」，そして「未来」を考える編著者中野常男氏他 9 名の共著であり，三部 6 章からなっている。第Ⅰ部「複式簿記の構造と機能―歴史的観点から」，第 1 章　複式簿記の基本構造とその成立過程，第Ⅱ部「現在簿記―『質問票調査』から見た学界人の複式簿記観―」，第 2 章「質問票調査」の概要と集計結果，第 3 章「質問票調査」の分析結果，第 4 章「質問票調査」とインテンシブ・インタビュー，第Ⅲ部「過去簿記と未来簿記―複式簿記：過去からの継承と未来への展望―」，第 5 章　過去簿記，第 6 章　未来簿記がこれである。第Ⅰ部において，過去簿記の原点としての「ヴェネツィア式簿記」を浮き彫りにしている。そして，これがどのように展開されて現在簿記へと継承されていくことになるかという問題が提起されている。第Ⅱ部では，現在簿記における簿記研究・教育の課題を探ろうとしている。この調査を通じて，現在簿記によって複式簿記の構造と機能を，過去にはじまり，未来にまで検討する拠点としている。第Ⅲ部は，複式簿記の継承と未来への展望であり，未来簿記について紙の制約からの解放により，コンピュータに対応する複式簿記の一般化と単式化の可能性に言及している。

学会賞への推薦理由

①「複式簿記の構造と機能―過去・現在・未来―」というテーマにアプローチするために，過去簿記の原点としての「ヴェネツィア式簿記」にみる日記帳，仕訳帳，元帳とその締切りのもつ意義が明確にされており，とくにこの「ヴェネツィア式簿記」は，パチョーロ（ルカ・パチョーリ）に代表されるような解説書や教科書により，またイタリア商人や外国商人等によりヨーロッパ各地へと伝播していったことがこの研究を始める契機となっていることをここに確認することができる。

②「現在簿記」の全体像を明らかにするために，質問票を作成し，これにより簿記研究・教育の現在を描き出そうとした。複式簿記，単式簿記の定義，その相違，複式簿記の重要な機能，簿記教育の実際と理想的な授業，教員の資質などにわたって興味深い点が多く浮き彫りにされている。

③　①にみた過去簿記の伝播と展開を通じて，どのようにして「現在簿記」に至っているかが明らかとなり，その継承すべきものが明らかにされている。そして，この現在簿記から簿記の未来への展望が示されている。しかし，これが「未来簿記」となると，更なる検討を待たねばならない。ただ，われわれは，未来に存在しているのではなく，現在に存在し，そこからの未来への展望であるという限界を認識する必要がある。

④　しかしながら，①②③にみるようなこの研究成果を検討するとき，その着想のユニークさと優れた研究成果に対して高く評価するものであり，これを日本簿記学会の学会賞として推薦することに委員会では意見の一致を見た。

日本簿記学会学会賞審査委員会

《日本簿記学会学会賞審査委員会よりのお願い》

学会賞審査委員会では，会員の皆様からの学会賞候補にふさわしい著書等のご推薦をお願いいたしますので，推薦書に推薦理由をご記入の上，学会事務局までお送り下さい。この推薦書は学会ホームページよりダウンロードすることができます。

日本簿記学会学会賞審査委員会

《会則・役員選挙内規の改正について》

さきの総会にて，下記の通り会則・役員選挙内規の改正が承認されました。

日本簿記学会会則

≪改正前≫	≪改正後≫
（役員の欠員と補充） 第16条　役員に欠員が生じたときは，次の措置をとる。 （1）理事については，その任期中は欠員を補充しない。 （以下略）	（役員の欠員と補充） 第16条　役員に欠員が生じたときは，次の措置をとる。 （1）理事については，直近の改選時における次点者をもって補充する。 （以下略）

日本簿記学会役員選挙内規（申合せ事項）

≪改正前≫	≪改正後≫
（申合せ事項） 理事割当枠について 理事改選に当たっての大学，高校，専門学校および職業会計人の各機関種別の理事割当枠は，選挙年度の全国大会前の３期間の全国大会所属機関種別出席者状況を勘案して決定する。なお，各全国大会における所属機関種別の出席状況は「日本簿記学会ニュース」で公示する。 理事割当枠の決定に当たっては，大学以外の所属機関種別の大会出席者が少ないときは，一定数に満たない各所属機関に対し理事割当枠１名を与えるものとする。 この場合，内規三．6．（5）を適用しない。	（申合せ事項） １．所属機関種別の理事員数割当枠について 理事改選に当たっての大学，高校，専門学校および職業会計人の各機関種別の理事割当枠は，選挙年度の全国大会前の３期間の全国大会所属機関種別出席者状況を勘案して決定する。なお，各全国大会における所属機関種別の出席状況は「日本簿記学会ニュース」で公示する。 理事割当枠の決定に当たっては，大学以外の所属機関種別の大会出席者が少ないときは，一定数に満たない各所属機関に対し理事割当枠１名を与えるものとする。 この場合，内規三．6．（5）を適用しない。 ２．会長経験者の被選挙権について 会長経験者は，役員の選挙に関し被選挙権を持たない。 ３．大学所属機関選出理事の関東・関西の地域異動について 大学所属機関選出の理事が任期中にその選出地域と異なる地域の大学に異動したときは，移動日の前日をもって理事の職を辞したものとみなす。

《中村　忠先生のご逝去を悼む》

日本簿記学会会長
近畿大学名誉教授　興　津　裕　康

忠（ちゅう）さんの愛称で親しまれていた一橋大学名誉教授中村忠先生が去る10月26日にご逝去された。痛恨の極みである。先生との想い出の中で印象深いことをここに紹介してみたい。1993年11月４日に，日本簿記学会簿記教育部会の「簿記教育の現状と検討」に関するインタビューのため，瀧田（同志社大学），鈴木（神戸大学）両先生と一緒に中村先生を一橋大学の研究室に訪ねた。インタビューには，歯切れ良く簡潔に，しかも丁寧にお答えいただいた。「最初は，資産とは現金とか，売掛金とか，商品とか，建物とかのような財または権利をいうと定義する・・・。」，「アメリカの３分法は，商品勘定，売上勘定，売上原価勘定です。」，「アメリカの会計等式といえば貸借対照表等式です。資本等式ではありません。」と初学者が理解できる簿記の定義の必要性を強調されたことが走馬燈のようの思い浮かぶ。中村先生，ありがとう。どうか安らかにお休み下さい。

《全国大会記》

日本簿記学会第 24 回全国大会記

準備委員長
香川大学　井原理代

日本簿記学会第 24 回全国大会は，平成 20 年 8 月 28 日（木）～ 30 日（土）の 3 日間にわたり，香川大学を当番校とし，高松商工会議所会館を会場にして開催された。殊の外暑かった今夏の残暑のなか，四国高松での大会に，会員・CPE 認定研修参加者をあわせ約 240 名の多数の会員にご参加いただいた。

大会初日には，選挙管理委員会，学会賞審査委員会および理事会が開催された。大会 2 日目には，会員総会に続いて，学会賞受賞報告，研究部会報告，統一論題報告が行われた後，懇親会が開かれた。なお，本年が役員改選期であるため，当 2 日目に役員選挙が実施された。大会 3 日目には，自由論題報告，記念講演および統一論題討論が行われ，またその間に新理事会が開催された。さらに，3 日目の最後には，高等学校における簿記教育懇談会の開催があった。以下，大会の概要について記すことにする。

会員総会では，会務報告，入退会者，決算と監査，次年度予算，次年度全国大会・地域部会，新年度研究部会等について，各担当理事から報告が行われ，承認された。また日本簿記学会学会賞について学会賞審査委員長の興津裕康氏（近畿大学）より審査報告が行われ，中野常男氏（神戸大学）編著による『複式簿記の構造と機能―過去・現在・未来―』に授与された。

会員総会に続き，新田忠誓氏（帝京大学）の司会のもと，昨年度学会賞受賞者である片岡泰彦氏により受賞報告（『複式簿記発達史論』）が行われた。続く研究部会報告は，氏原茂樹氏（流通経済大学）の司会のもと，簿記理論研究部会（部会長：石川鉄郎氏／中央大学）「純資産の部の導入に伴う簿記・会計上の諸問題」，簿記教育研究部会（部会長：浦崎直浩氏／近畿大学）「簿記教育と倫理のフレームワークに関する研究」，簿記実務研究部会（部会長：多賀谷充氏／青山学院大学）「会計帳簿の現代的意義と課題」についてそれぞれ 2 年間にわたる研究の最終報告が行われた。

統一論題報告では，原田満範氏（松山大学）を司会に迎え，「複式簿記の機能と本質―業種，規模のちがいから多角的に考える―」を統一論題として，業種ならびに規模の視点からそれぞれ二人の報告者による報告が行われた。その報告者と論題は，大室健治氏（中央農業総合研究センター）「農業簿記の特徴と役割」，小南裕之氏（北海道農業協同組合中央会）「農業簿記の実務と課題」，坂本孝司氏（税理士法人坂本＆パートナー）「中小会社における帳簿の意義と機能」，河﨑照行氏（甲南大学）「中小会社における簿記の意義と役割」であった。

このような報告終了後，報告会場と同じ高松商工会議所会館において懇親会が行われ，多くの会員の参加をいただいた。

大会 3 日目の自由論題報告は，二つの会場で次のように行われた。第一会場では，横山和夫氏（東京理科大学）の司会により，浅井勝巳氏（小諸商業高等学校）・服部文彦氏（岡崎商業高等学校）「高等学校における新たな簿記指導の一考察―NIE 教育を活用した総合的な指導―」，石川業氏（愛知大学）「純資産・株主資本の簿記と発行済株式の簿記との相互補完」，また佐藤信彦氏（明治大学）の司会により，梶原太一氏（同志社大学院生）・田口聡志氏（同志社大学）「複式簿記の行動経済学的分析」，王春山氏（東北財経大学会計学院）「複式簿記の基本論理とその記録対象の変化構図」の各報告が行われた。第二会場では，高須教夫氏（兵庫県立大学）の司会により，小阪敬志氏（中央大学院生）「IFRS3 における段階取得の会計処理に関する一考察」，馬上望氏（明治大学）「連結の範囲に関する一考察―特別目的会社の会計処理を題材に―」，石津寿恵氏（明治大学）「独立行政法人における固定資産の会計処理に関する検討」の各報告が行われた。

記念講演は，中野常男氏（神戸大学）を司会に迎え，興津裕康氏（近畿大学）を講演者として「簿記を学び，簿記を考える」という演題で行われた。

前日の報告に続く統一論題討論では，原田満範氏を座長に，4 名の報告者にコメンテーターの松本敏史氏（同志社大学）ならびに泉宏之氏（横浜国立大学）を加え，フロアの会員とともに活発な議論が展開された。

以上のプログラム終了後に，高等学校における簿記教育懇談会が開催され，実り多い意見交換が行われた。

《関東部会記》

日本簿記学会第 24 回関東部会記

実行委員長
東京理科大学　吉　岡　正　道

日本簿記学会第 24 回関東部会は，2008 年 6 月 28 日（土）に東京理科大学神楽坂キャンパスにて開催された。本部会は，税効果会計基準が適用されてから 10 年が経過し，このことを踏まえて「税効果会計の現代的課題」を統一論題とした。

本部会のプログラムでは，陣内良昭氏 (東京経済大学) が座長，成道秀雄氏 (成蹊大学) が討議者を務めた。報告者はつぎのとおり報告した。

(1) 杉山晶子氏（東洋大学）「繰延税金資産の資産性」

杉山氏は，繰延税金資産が，将来減算一時差異解消時に「税金支出というキャッシュ･アウトフロー」を減額させることから，キャッシュの獲得に貢献することで，貸借対照表の計上要件である資産性を満たしていると報告した。また，アンケート調査研究に基づき，繰延税金資産は，監査分類により異なるものの「キャッシュ・アウトフローの減額」として資産性をとらえる企業が多いことを指摘し，データ分析の結果を報告した。

(2) 醍醐聰氏（東京大学）「法人税等調整額の性格の再検討」

醍醐氏は，税効果会計の本来の目的とは異なり，法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に乖離が存在していると指摘した。また，法人税等調整額そのものは，当期に生じた一時差異の受け皿とするべきである。したがって，繰延税金資産・負債の回収可能性の見直しに起因する税効果の変動額は，独立の損益項目（例えば繰延税金資産評価損益）として計上し，税引前当期純利益の計算に反映させるべきであると報告した。

(3) 山岸聡氏（新日本監査法人）「経営者の見積りと繰延税金資産の回収可能性」

山岸氏は，繰延税金資産の回収可能性の判断要件として最も重要なことは，収益力に基づく課税所得の十分性であると報告した。また，特に見積りには，内部統制の確立が不可欠であると指摘した。したがって，事業計画の妥当性が担保されて，将来減算一時差異が解消するためのタックス・プランニングの実現可能性が高いことになる。さらに，過去の見積りと実績の比較を将来の見積りにも生かすスケジューリングの重要性を指摘した。

(4) 統一論題討論会

討論会は，陣内氏の進行のもと，成道氏が討論の口火を切って各報告者に質問するかたちで進められた。その後，参加者の中から，増子敦仁氏（東洋大学），生駒和夫氏（公認会計士），中野貴元氏（イーグローバレッジ（株）），岩崎勇氏（九州大学），布川修平氏（福島大学），今村猛氏（公認会計士），稲村健太郎氏（東北大学大学院）が報告者に対してつぎのとおり質問した。

・繰延税金資産は，解消時に (借) 法人税等調整額　×××　(貸) 繰延税資産　×××　となることから，税金の前払費用に近いものではないのか。
・税引前当期純利益と法人税等調整の対応を純化し，負担率を法定実効税率とするため，あえて独立の損益項目を計上する意味がどこにあるのか。
・繰延税金資産・負債の見直しに伴う変動額は，法人税等調整額ではなく，費用・収益として計上する場合に，区分損益の分類はどこに置くべきなのか。
・税効果会計に関する影響を税引前当期純利益と税引後当期純利益とに分ける論理は何であるのか。
・評価性引当金によって当期の対応関係は乖離するが，来期以降の対応関係が成立するので，税引前当期純利益と税負担額の税率による対応関係は総じて成立しているのか。
・会社の会社回収可能性の判断を監査人が覆した実例があるのか。
・繰延税金資産評価減と評価益が損金・益金とならない場合は，法人税法と会計の調整が必要となるのか。

討論会を総括して，陣内氏は，税効果会計の複合的な調整が法人税等調整額という 1 行の下になされており，このような属性を理論的にも実務的にも簿記学会として考察することの重要性を指摘した。なお，本部会には，150 名 (当日参加 33 名を含む) の会員が参加し，盛況であった。

《新会長メッセージ》

日本簿記学会会長
近畿大学名誉教授　興　津　裕　康

この度，日本簿記学会第24回大会において本学会の会長に選出されました。今，日本簿記学会は，24年前の1985年の設立から4分の1世紀を迎えようとしており，誠に感慨深いものがあります。この大きな節目を前に，会長を引き受けることになり，光栄であると共に，身の引き締まる思いが致します。初代会長新井益太郎先生をはじめ歴代の会長，会員の皆様のご尽力により，今日みる日本簿記学会が存在していることを忘れてはなりません。ここに本学会の今日を築き上げ，その発展に寄与された方々に，本学会を代表して深甚なる感謝の意を表するものであります。それと共に，これまでに築かれた伝統を重く受け止め，なお一層の学会発展のために力を尽くす覚悟でございますので，会員の皆様のご支援を切にお願いいたします。

日本簿記学会の設立趣旨に，「簿記学は会計学の部分領域というよりも，その基底的な学問領域である」として，簿記の理論，実務および教育などの振興をはかり，会計学および会計実務の一層の発展に寄与することを目的として，本学会が設立されております。この目的を達成するために，会員として大学教員のみならず，公認会計士，税理士等の職業会計人および高校教員にまで広く門戸を開いており，全国大会および関東部会，関西部会において個別論題，統一論題を通じて研究報告の場を提供するだけでなく，研究活動の充実を図るため，簿記理論研究部会，簿記教育研究部会，簿記実務研究部会という３つの研究部会を設けており，大学教員を中心として，公認会計士や税理士等の職業会計人，専門学校・高校の教員もこれに参加して大きな成果を上げております。３つの研究部会での研究成果は，全国大会で報告を行うことになっており，個別論題，統一論題における各人の学会報告と共に学会誌である『日本簿記学会年報』に掲載して，多くの会員に研究意欲を高めております。また，会員の優れた研究成果に対して，「日本簿記学会学会賞」を授与して表彰しており，さらに学会報告論文に対する「日本簿記学会奨励賞」も設けることを検討しております。このほか，年２回発行の「簿記学会ニュース」により本学会の活動内容が公表されております。コミュニケーションの手段として，学会ホームページと併せてその内容の充実を計りたいと考えております。

簿記は，商人の知恵から生み出されたものです。会計学は簿記から生まれたものです。したがって，簿記は会計学の母です。日本簿記学会は，簿記を対象として多角的に研究する学会であります。今から510年余り前に，イタリア人ルカ・パチョーリによって著わされた *Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita*（算術，幾何，比および比例総覧，1494年）という著書があります。このタイトルが示すとおりルカ・パチョーリのこの書は数学書であります。イタリアの大学で数学を講じた数学者でありますが，この書に複式簿記が登場しました。彼が，若き日に，あるベニスの裕福な商人の家に住み込みの家庭教師としてその子弟を教えていた頃，商人の間でみられた複式簿記法によって商業活動が記録されている帳簿に接したことから，本書の中の小編「計算および記録要論」に複式簿記のシステムを書くことになったといわれています。当時の学問に使用されている言語はラテン語でしたが，本書はイタリア語で書かれており，学問言語としてのラテン語ではなく，民衆に理解されるイタリア語で，彼等の生活に役立つ内容を書こうとした「実学」の精神が本書にみられます。現在の簿記のルーツが，ここにみられるのであります。そして，これが発展して現在の簿記になったように，また，現在の簿記を経て，未来において見る簿記へと展開されると思われます。

日本簿記学会は，「簿記を学び，簿記を考える」学会であり，簿記に関心のある人々に「開かれた学会」であります。簿記に関心を持ち，簿記を学びたい，そして考えたい方々のご参加を心から歓迎いたします。

平成19年8月28日以降，平成20年8月27日までに申し込まれ，8月28日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入会会員名簿

（名簿の番号は会員番号）

番号	氏名	所属機関	番号	氏名	所属機関
2008-002	林 聖一	福島県立若松商業高等学校	2008-030	結城 政信	横浜市横浜商業高等学校
2008-003	北岡 謙一	千葉県立千葉商業高等学校	2008-031	小川 宗彦	小川宗彦税理士事務所
2008-004	佐藤 匠	新潟県立巻総合高等学校	2008-032	今村 猛	今村公認会計士事務所
2008-005	宗田 健一	鹿児島県立短期大学商経学科	2008-033	黒瀬 晴生	新潟県立新発田商業高等学校
2008-006	村橋 剛史	朝日大学	2008-034	坂本 孝司	税理士法人 坂本＆パートナー
2008-007	山田 ひとみ	秋草学園短期大学非常勤講師	2008-036	狩野 一久	東京工芸大学
2008-009	橋本 寿哉	大東文化大学経営研究所	2008-038	渡邊 利視	茨城県立水戸商業高等学校
2008-010	匹田 新	株式会社ニレコ	2008-039	長島 弘	自由が丘産能短期大学
2008-012	餅川 正雄	広島市立広島商業高等学校	2008-040	大室 健治	㈱農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター
2008-013	平松 朗	金融庁総務企画局企業開示課	2008-041	小南 裕之	JA北海道中央会
2008-014	松本 禄生	愛知県立緑丘商業高等学校	2008-042	武田 結幸	(学) 武田学園 専門学校ビーマックス
2008-015	浅子 敏行	税理士法人赤坂国際会計事務所	〈準会員〉		
2008-016	大泉 寛	大泉寛税理士事務所	2008-001	田中 薫	中央大学大学院商学研究科
2008-017	五関 幸子	税理士法人メディアエス	2008-008	中村 純一郎	大東文化大学大学院
2008-018	浅野 進	茨城県立古河第一高等学校	2008-011	大城 隼人	名古屋経済大学大学院
2008-019	川本 淳	学習院大学経済学部	2008-025	津村 怜花	神戸大学大学院経営学研究科
2008-020	木藤 則行	東京都立第一商業高等学校	2008-026	吉本 圭一郎	広島大学大学院社会科学研究科
2008-021	佐久間 義浩	富士大学	2008-028	神尾 篤史	立教大学大学院経済学研究科
2008-022	井上 善博	諏訪東京理科大学	2008-029	中村 英敏	中央大学大学院商学研究科
2008-023	杉田 武志	広島経済大学	2008-035	木下 貴博	立教大学大学院
2008-024	醍醐 聰	東京大学大学院経済学研究科	2008-037	堂野崎 融	呉大学社会情報研究科
2008-027	落合 香織	越谷会計ゼミナール			

事務局からのお知らせ

《会費振込のお願い》

本年度（平成20年度）の会費を未納の方は，下記宛に早急にお振り込みください。

口座番号　00190-9-23806　加入者名　日本簿記学会

《事務局への問い合わせについて》

事務局への問い合わせについては，連絡事務所にお願いいたします。

《住所・所属の変更について》

住所・所属の変更があった場合は，会費振込時に振替用紙にご記入いただくか，連絡事務所に書面にてお知らせください。

編集後記

本年8月の日本簿記学会第24回全国大会にて行われました役員選挙の結果，興津裕康氏（近畿大学(名)）を新会長とする新たな役員体制がスタートいたしました。今回のニュースに，新理事の諸先生の役割分担を記載しておりますのでご参照いただければと存じます。また，役員改選に伴い，幹事も新たな体制となりました。幹事一同，微力ではありますが，新理事の諸先生の下におきまして円滑な学会運営のお役に立てるよう努力して参りますので，会員の皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

（清水・原・和田・渡邊（貴）・渡辺（雅））

発行所
編集兼
発行人　日本簿記学会事務局

連絡事務所
〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail　boki@hakutou.co.jp